

## 今週（5月21日から5月25日）の短期金融市場動向

### ●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、日銀当座預金残高が380兆円台前半の高水準で推移する中、無担保コールO/Nは弱含む展開となり、概ね▲0.086～▲0.05%のレンジで取引された。積み期の序盤ということや、レポレートなどの低下から大手行の調達意欲が減退した。無担保コールO/N加重平均レートは▲0.07～▲0.068%となった。ターム物に関しては、1W～1Mのターム物で▲0.05～▲0.03%近辺の出会いが中心となった。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは24日に2W物・8,000億円がオファーされ、1,571億円（期落ち額1,981億円）と札割れとなった。

### ●レポ市場

今週のO/N GCは、▲0.15～▲0.10%の広いレンジでの取引となった。週前半は投資家の資金調達によって▲0.12～▲0.10%近辺での出会いが中心であったが、週後半に投資家の資金調達が一服すると、レートは低下し、一部▲0.15%近辺での出会いが見られていた。

SCは個別銘柄では5y130～135、10y334～350、20y160～164、30y50～58、40y10などのカレント銘柄近辺や、チーペスト周りの銘柄にビッドが多く見られた。

### ●短国市場

今週の短国市場は、週初の短国買入オペを経て、GCレポレートも低位で推移するなど良好な需給環境が継続し、週を通して堅調な展開となった。

21日に実施された短国買入オペは、10,000億円がオファーされた。平均落札利回較差▲0.001%、按分落札利回較差▲0.003%と小じっかりの結果となった。

25日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.15～▲0.145%で強めの出会いが見られる中、平均落札利回▲0.1431%、按分落札利回▲0.1383%と概ね事前予想通りの結果となった。

### ●CP市場

今週は、CPオペ等の特段のイベントはなかったものの、不動産・電機・商社業態等の大型発行が見られ、週間償還総額約3,200億円に対し、週間発行総額は約7,000億円程度と大幅な発行超となった。5月末の法人税や賞与の支払いを控えて、前倒しでの発行を行う企業が見られたことが要因と考えられる。a-1格以上の発行レートは、発行頻度の低い銘柄で▲0.015～▲0.005%近辺での強めの出会いも見られたものの、概ね浅いマイナスから0%近辺での推移であった。

### ●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
5/21 (月)	23,002.37	0.051	111.04	△ 0.068	△ 0.117	3,831,900
5/22 (火)	22,960.34	0.045	110.95	△ 0.068	△ 0.110	3,842,100
5/23 (水)	22,689.74	0.040	110.48	△ 0.070	△ 0.116	3,827,500
5/24 (木)	22,437.01	0.040	109.50	△ 0.070	△ 0.126	3,832,500
5/25 (金)	22,450.79	0.035	109.54	△ 0.071	△ 0.150	3,827,300

## 来週（5月28日から6月1日）の短期金融市場動向

### ●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定	海外主要経済指標
5/28 (月)	4月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50)		New York祝日(Memorial Day) London祝日(Spring Bank Holiday)
5/29 (火)	4月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 4月の一般職業紹介状況(=有効求人倍率 厚生労働省 8:30)	40Y 4,000億円 5/30発行	3月のS&P/ケース・シラー住宅価格指数 5月の米CB消費者信頼感指数
5/30 (水)	日本銀行金融研究所主催2018年国際コンファランスにて黒田総裁講演 4月の商業動態統計速報(経済産業省 8:50) 5月の消費動向調査(内閣府 14:00)		米ページブック 1-3月期の米GDP改定値
5/31 (木)	4月の鉱工業生産・出荷・在庫速報(経済産業省 8:50) 4月の住宅着工統計(国土交通省 14:00)	2Y 21,000億円 6/1発行	4月の米個人所得・消費支出 5月のシカゴPM景況感指数 5月のユーロ圏消費者物価指数速報値
6/1 (金)	1-3月期の法人企業統計調査季報(財務省 8:50)	TB3M 44,000億円 6/4発行	4月の米建設支出 5月の米雇用統計 5月のISM 製造業景況指数

### ●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
5/28 (月)	200	▲ 400	▲ 200	全店共通 CP買入 国債買入 国債補完 社債買入	▲ 2,000 ▲ 500 300	1,600 10,700 1,000	11,100	10,900	地方貸し TB3M発行▲44000償還34000
5/29 (火)	0	1,000	1,000				0	1,000	
5/30 (水)	▲ 1,000	▲ 4,000	▲ 5,000				0	▲ 5,000	40Y発行▲4000 交付税借入▲10500期日10500
5/31 (木)	600	4,000	4,600	CP買入		2,000	2,000	6,600	
6/1 (金)	0	▲ 28,000	▲ 28,000				0	▲ 28,000	機関貸付回収 税・保険料揚げ前倒し 2Y発行▲21000
週間合計	▲ 200	▲ 27,400	▲ 27,600	—	▲ 2,200	15,300	13,100	▲ 14,500	

5/28は日銀予想、5/29以降は当社予想

### ●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、今週の弱い流れを引継ぎ、無担保コールO/N加重平均レートに大きな変化は無いと予想する。レポ市場は、長国、短国の発行があるものの、日銀オペ等を通して業者の売物は減少していくと思われることから、足元GCは▲0.15～▲0.10%の広いレンジでの推移になると予想する。短国市場は、6月1日に3M物の入札が実施予定となっており、相場は引き続き横ばい圏での堅調な推移が予想される。CP市場は月末に向けて、さらに発行が活発になることが期待される。また、28日にC P等買入オペが2,000億円でオフアーされる予定となっており、発行増を受けて落札水準が注目される。

主要なイベントとしては、30日の米ページブック、1-3月期の米GDP改定値、31日の5月のユーロ圏CPI速報値、1日の5月の米雇用統計などが挙げられる。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入